

110年という節目

園長 児嶋 草次郎

何事も一人にては成り立たぬものぞ 徳川家康

新年、あけまして、おめでとうございます。昨年はコロナから解放され、子供たちは日常生活を取りもどすことができました。秋には収穫感謝祭を本来の姿で開催し、1000人以上の方々に楽しんでいただけました。自然と人との共生の実現という点において、また、和・輪づくりにおいて、ありがたいことでした。ちょっとだけ恩返しもできました。

今年、石井十次没後 110 年、児嶋鳩一郎生誕 110 年という節目の年です。「友愛の森」事業（年齢・障がいの有無を越えた共生の町づくり）や、母子生活支援施設「みどりホーム」の建設に取り組んでいます。また、その資金確保のための寄付募集もスタートさせています。新たな時代へ向けての新たな和・輪・環づくりとも言えます。より、障がい者の方々の活躍できる場を確保したいという強い思いが中心にはあります。

色々と御迷惑をおかけし申し訳ないではありますが、今年も御指導・御支援のほど、よろしく願い致します（以下は 12 月 24 日のクリスマス会での子供たちへの話です）。

クリスマス、おめでとうございます。

コロナからも解放（5月8日）され、ほぼあたり前の日常生活を取り戻せた約半年でした。そして、4年ぶりに保育園との合同の収穫感謝祭（11月23日）を開催することができました。この1年を振り返る時、最も感謝すべきことです。収穫祭の日には古い卒園生も県外から何人か帰って来てくれ、その日の夜、交流することができ、私にとってはこの1年で最も楽しい夜となりました。

先ほど、館長のトモナ君がこの1年を振り返ってくれました。夏の児童養護施設対抗の球技大会（8月3日）で、女子バレーが県内で友愛園始まって以来初めて優勝できたこと、また、12月3日の施設対抗駅伝大会で、友愛園チームが優勝できたことは、今年の誇るべきニュースでした。チームワークによってもたらされた勝利でした。

一方、野球・ソフトボールの敗退は、課題を突きつけられることになりました。九州大会での女子バレーボールの試合を見ていると感じさせられたことですが、チームの中心になって戦う高校生たちのメンタル面の弱さが結局問われることになりました。緊張状態が続いて、感情が上に下に揺れ始めた時のコントロール力が弱かったということです。これは、日頃からの生活習慣の訓練の中でしか体得できないものです。いくら強がりも言っている、その一球で勝つか負けるかの瀬戸際の状況に立たされたら、感情は自分の気持ちとは反対方向に突っ走り、どうしようもなくなってしまいます。

大会後に明倫塾や反省会で学んだのが、大谷翔平選手の花巻東高校時代の「目標達成シート」です。大谷選手は、高校で寮生活を送っています。言わばこのみんなと同じ生活です。高校3年間の集団生活で学び取ったものが、今の彼を支えています。

目標を達成するために必要な資質を彼は書き並べ、日々の生活訓練の中で生活習慣として身につけていったのです。それらの言葉のいくつかをここに並べてみます。

「運」という項目には、あいさつ、ゴミ拾い、部屋そうじ、道具を大切に使う、プラス思考等、「メンタル」という項目には、雰囲気にならなれない、波をつくらない、仲間を思いやる心等、「人間性」という項目には、思いやり、感謝、礼儀、信頼される人間等の言葉が並んでいます。

これらの言葉は、この友愛園生活でも常に耳に触れる言葉です。「生活手帳」にも書いてあります。常にプラス思考で感謝の気持ちで生活することが大事なのです。三友館の「生活心得」に「ゴミを見たらポケットに入れる心がけを持って」と書いてありますが、大谷選手は、大リーガーになってもそのことを実践しており、その行為を「他人が捨てた運を拾っているんです。」と説明しています。その謙虚な言動はすばらしいと思います。

みんなが社会に出て戦う場は大谷選手とは違いますが、世界に通用する生活習慣をここで学んでいるという気持ちで、修行に取り組んでほしいと思います。さきほど、11月23日の収穫感謝祭の夜に古い卒園生たちと交流したという話をしましたが、皆、口々に、友愛園での厳しい生活が今の自分を支えていると言っていました。

みんなも知っているように大谷選手は、今年、アメリカ大リーグで日本人で初めて本塁打王に輝きました。そして、来年は、強豪ドジャースに移籍することが決まりました。10年契約で約1015億円だそうです。アメリカのスポーツ史上最高額だそうです。1015億円という金額がいかにかすごい金額か。この木城町の年間予算がいくらか知っていますか。47億8千万円だそうです。木城町の年間予算の21倍です。すごい数字だということが分かりますね。大谷選手は全国の小学校にグローブをプレゼントされるそうです。茶臼原小学校にも届くと思いますから、楽しみにしてください。

ちなみに、もう一人、ドジャースに新たに日本人投手が、日本のプロ野球から移籍することになりました。宮崎県の都城高校出身です。そうです山本由伸投手です。昨日(12月23日)の読売新聞では、現都城高校監督(山本投手の2年先輩)が、「とにかくまじめ、注目されても謙虚に練習の強度を上げながら技術を磨いていた」と評価していました。大谷選手と同じような資質の持ち主なのかもしれません。山本選手との契約は12年で約463億円だそうです。先ほどの木城町の総予算の約10倍です。

大谷選手の話も山本選手の話も、私たちからすれば夢の世界の話のように思えますが、彼らも一人の人間です。みんなと同じような子供時代があって、コツコツ努力して、結果を出したのです。その努力について、みんなも10分の1でも100分の1でも学んでもよいと思います。

さて、もう一人の話をします。

「鳴かぬなら、殺してしまえホトトギス」と言ったのは誰でしょう。そうです織田信長だと言われています。それでは、「鳴かぬなら、鳴かせて見せようホトトギス」は誰でしょう。豊臣秀吉です。もう一人、「鳴かぬなら、鳴くまで待とうホトトギス」は、誰ですか。そうです徳川家康です。徳川家康の話を少しします。

今年は、NHKの大河ドラマ徳川家康が取りあげられました(『どうする家康』)。できるだけ見るようにしましたが、1年間の放送が終って感じるのは、徳川家康への印象が180度変わったということです。みんなのためになる話をさせてもらいます。

みんなは徳川家康に対して、どのような印象を持っていますが。私が中学校時代、歴史で学んだ家康のイメージというのは、「狸おやじ」そのものでした。豊臣秀吉亡き後の関ヶ原の戦いとか大坂の陣等を見ていると、計算高いとか策略家などの印象を持ちました。豊臣家を存亡に追いこんだわけですから、腹黒いと思われても仕方ないところもありました。

ところが、今年テレビを見ながら、いくつかの本を読んでみたら、印象が全く変わってしまいました。徳川家康の少年時代が、ここにいるみんなと重なって見えるようになったのです。織田信長や豊臣秀吉の少年・青年時代もそうですが、日々が戦国時代でした。そういう時代に徳川家康も生まれています。戦国時代というのは、日本はまだ統一されていなく、この宮崎県が隣の鹿児島県や大分県と常に戦っているような状態のことを言います。その戦争に負けたら、殿様やその家族や家来たちは、皆殺されてしまいますので、みんな必死に生き、また戦っていました。

徳川家康の生まれた家（松平家）は小さな国でしたが、回りの国々との抗争が絶えませんでした。強い国であった今川義元や織田信長の父信秀等にはさまれて、この家康の家族は運命に翻弄されていきます。今川に助けられていたのですが、家康のお母さんの実家が織田方に寝返ったということで離婚させられ、まずお母さんと生き別れになります。3歳の時です。ここに同じ体験をしている人がいます。おじいさんは、家来から斬り殺されていますし、10歳で後を継いだお父さんも、今川に助けられて何とか国を引き継いだのですが、やはり家来に刺され、その傷がもとで24歳で亡くなってしまいます。そして、国は今川氏の管理下に置かれることになってしまいます。

これはまだお父さんが生きていた頃のことですが、今川氏に助けを求めた時、今川氏からの要求で、家康は6歳の時に人質として差し出されることになります。人質というものがどういうものか分かりますか。「もしお前がオレを裏切ったら、お前の息子の首をはねるからな」ということになるのです。戦乱の世の中では、裏切りは日常茶飯事ですから、こういうことは広く行われていました。すごく緊張を強いられる生活です。ところが身柄を移送の途中、織田側に奪われてしまいます。「売られた」という説もあります。織田側は今川氏の敵です。そこで2年間過ごして、ようやく8歳の時人質交換で、今川氏のもとに連れていかれます。

そして、その人質生活は12年間に及びます。自分の国、岡崎城に帰ることができたのは19歳の時でした。6歳から19歳まで、すべて人質生活です。その間に人生を生き抜いていくための知恵をすべて学びました。家康が一番考えたのが、まず「松平家の再興」だと思います。そして、自分のみじめな人質生活をかみしめながら、戦争のない平和な国づくりをしたいという思いを常に抱き続けたのだと思います。

先ほどみんなと重なって見えるようになったと言いました。みんなも徳川家康と自分とを重ねて考えてみてほしいと思います。徳川家康は人質時代に、運命を変えていくための資質をすべて身につけていったのです。ピンチをチャンスとしたのです。一人の気の弱い少年が、じっと耐える生活から、学力はもちろんですが、忍耐力、精神力、生活力、自立力等を身につけていき、やがて日本を統一し、260年間戦乱のない世の中を維持する基盤を築きあげたのです。

ここにいるみんなも、今は、力弱き一人の少年少女ですが、未来は無限大に広がっています。自分の可能性を信じて、来年も、運命を変えるための修行に取り組んでほしいと思います。

それから、世界にも視野を広げなければなりません。ロシア・ウクライナ戦争は1年10カ月になりますが、まだ続いています。今だにロシアはウクライナ領土の約18%を占領し続けており、戦況は膠着状態で、日々死闘が繰り広げられているということです。

この戦争は、飛び火したと言ってもよく、イスラエルで10月以降新たな戦争が始まっています。死者は子供約8000人を含んで2万人に達したとも言われています。

地球温暖化で、世界各地で大規模な自然災害がおきるようになってきました。今年の夏の暑さも異常でしたが、夏の平均気温は、過去最高だったと、9月の新聞で伝えていました。1898年の統計開始以降で、最も暑かったのだそうです。これは地球規模の現象で、12月1日の新聞では、12万5千年前以来、

最も暑い1年だったと書いてありました（朝日新聞）。

私たちをめぐる社会の状況は、この数年、年々厳しくなっています。こうして、平和にクリスマス会を開くことができることを感謝しながらも、お互いに、しっかり自分の運命や社会に向き合って、来年も生きることを誓い合いたいと思います。